

第16回 運転ボランティアの気持ち ①

運転ボランティアは何を想うのか

今回のテーマは「運転ボランティアの気持ち」です。通院送迎活動の主たる担い手である運転ボランティアの皆さんは、普段どのような気持ちで送迎活動に臨んでいるのでしょうか。また送迎活動に携わることは、ボランティアにとってどのような意味を持つのでしょうか。なかなか聞く機会のないボランティアの本音について今回は「ステップ福岡」の運転ボランティアの皆さんにお話をいただきました。皆さんが語る日頃思うことのなかから。運転ボランティアの気持ちを探っていきたいと思います。

「もちろん大変」でもいつも笑顔

試みに、運転ボランティアが活動している姿を想像してみてください。事前に利用者宅の場所を地図で確認して、定刻に迎えにいき、利用者の体調を気にしつつ病院まで安全運転…。運転技術とあわせて細やかな心配りを必要とされる活動はとても大変そうですが、実際のところはどのようなのでしょうか。

「ステップ福岡」のベテラン運転ボランティア、北口菊男さんと森勝紀さんのお二人にうかがってみました。

「それはもちろん大変に決まっていますよ。」と、北口さんは即答です。しかし満面の笑みで答える姿はまったく大変そうではありません。「ステップ福岡」のコーディネーター落合律子さんは、北口さんを“笑顔の素敵な人”と呼んでいます。北口さんは活動中、常に笑顔を絶やしません。利用者の中にはボランティアに対して心無い言

葉をぶつける人もあるのですが、そのような場面でも北口さんはいつも笑顔なのだそうです。「やめようと思ったことは何度もありますよ。」そう口では言いますが、もちろん北口さんに辞める気配はありません。通院送迎にはどんなに大変でもボランティアを続けられる“何か”があるようです。

ボラ活動の無い日はボラの“休日”

もう一人のボランティア森さんは、北口さんとは少し異なった見解をお持ちです。

「運転ボランティアを大変だと思ったことなんて一回もないね。安全運転や送迎当日のための準備は当然のことだし、確かに利用者のなかには気難しい方もいるけれど、まったく苦にならない。逆にどうしたら良い関係がつけられるかを考えられて楽しいよ。」このように語る森さんですが、決して気軽に運転ボランティアをしているわけではありません。むしろ運転ボランティアは生半可な気持ちではできない活動だと考えています。「運転ボランティアは他のボランティア活動と同じ感覚ではできないと思う。人を運ぶ以上、短時間でも命を預かるわけだから、それは気軽なお手伝いとは違う。」このような考えから、森さんは常に緊張感をもって送迎活動に臨んでいます。だからこそ、「運転ボランティアの予定が無い日の朝は、今日は“休日”なんだなと思って、とてもほっとした気分になる」のだそうです。

次回は…

運転ボランティアの気持ち ②